

平成 22 年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立大久保中学校 教諭 川崎 孝行

- 1 派遣期日 平成 22 年 11 月 12 日（金）
- 2 研修先 学校名 埼玉県新座市立第五中学校
所在地 埼玉県新座市野寺 4-8-14-8-1
[http://www. c-niiza.ed.jp/j-daigo](http://www.c-niiza.ed.jp/j-daigo)

3 研修内容

第 39 回 関東甲信越中学校道德教育研究大会

(1) 基調提案

大会主題	「今を生き・夢をもち、共に未来を拓く道德教育の創造」
副主題	～道德の時間を要に学習指導要領が求める道德教育実現を目指して～

現代の子どもたちは、生命尊重の心や自尊感情の乏しさ、基本的な生活習慣の欠如、規範意識の低下、人間関係を築く心や集団活動を通じた社会性の育成の不十分さなどが指摘され、子どもの「心の活力」を高めていくことが大きな課題になっている。

そして、この課題に対して解決するためには、子ども自身が「人間としての生き方を考える」ことを通して、今を生き、夢をもち、共に未来を拓く道德教育の創造を目指していくことがきわめて重要であると考え、本研究の主題を設定していた。

学習指導要領では、道德を道德の時間を要として学校の教育活動全体を通して行うものとしており、道德教育の充実を目指している。その学習指導要領の趣旨を反映させながら、道德教育充実のための観点を各分科会に記していた。

(2) 課題別分科会

- 1 生きて働く指導計画の作成と道德教育推進教師の役割
- 2 心に響く魅力ある道德授業の創造
- 3 「人間としての生き方」を高める道德教育の資料
～道德の時間に限らず、道德教育全体の教材・資料の開発を目指して～
- 4 要としての道德教育の時間と他の教育活動との響き合い
- 5 私のクラスの道德教育
～教師や生徒の個性が活きる道德教育の実践～
- 6 学校・家庭・地域社会が連携した道德教育

(3) 講演 これからの道徳教育に求められるもの

～新学習指導要領先行実施の諸課題～

国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官

(併) 文部科学省初等中等教育教育課程課 教科調査官 澤田 浩一

- 1 教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進
- 2 発達の段階ごとの特徴をふまえた道徳教育の推進
- 3 課程や地域社会との連携による道徳教育の推進
 - ・道徳の時間の授業公開を学校教育の活性化に生かす。
 - ・異校種間及び特別支援学校等との連携を生かす。

(4) 公開授業参観

道徳授業 主題名 集団での役割と責任 4－(4) 集団での向上

資料名 「長縄跳び」

体育祭に向けて、長縄跳び練習に励んでいる場面の物語である。主人公は練習の前半は頑張っていたが、後半になるにつれ、やる気のない気持ちがでてきて適当な練習をしてしまった。しかし、友達が頑張っている姿を見て自分の態度を恥ずかしく思い、また練習を頑張るという資料である。

授業を参観して参考になる点が3つあった。1つは資料の丁寧な判読で、生徒に十分な資料の理解をさせて、話し合い活動が活発になるようにしていた。2つ目は板書の工夫で主人公の前半と後半の心情の変化も、黒板を見ればすぐに分かるようにまとめていた。3つ目は授業の中で役割演技が行われ、主人公の気持ちを共感するような場面の設定を行っていたことである。

生徒の授業の態度は互いの意見を認め合う様子が発表の中から見られ、主人公の気持ちを掘り下げて考えていた。授業のまとめでは主人公と自分自身と重ねて考え、日常の生活を振り返っていた。

4 感想

全学級の道徳授業公開で学年・学級の実態に応じて、授業を行っていた。授業を参観して印象に残ったことはそれぞれの教師が生徒の反応に応じて授業を進めていたことである。題材はそれぞれ異なるが、個性豊かな授業が数多く見られた。教師の教材研究の熱心さと教師と生徒の関係のよさが感じられた。

また、授業後から日常へ生かそうとする学校の取り組みがあり、授業だけで終わらない活動の大切さを感じた。